

ドイツ文学

科目責任者 八木 頼子
学年・学期 1 学年・1 学期

一
学
年

I. 前 文

本講義では、19世紀以降のドイツ文学作品を取り上げる。作品の受容や、描かれるテーマをたどり、ドイツ文学について概観する。

II. 担当教員

非常勤講師 八木 頼子

III. 一般学習目標

文学作品に親しみ、社会・人・物語の関係を読み解く。

IV. 学修の到達目標

自らの考えを言語化し、表現する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション, ディベート 3：グループワーク 4：実習, フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	4	26	水	5	概説, ゲーテの作品を読む	八木 頼子	2, 3
2	5	10	水	4	グリム兄弟の作品を読む	八木 頼子	2
3		17	水	4	クライストの作品を読む	八木 頼子	2
4		24	水	5	トーマス・マンの作品を読む	八木 頼子	2
5		31	水	4	ミヒヤエル・エンデの作品を読む	八木 頼子	2
6	6	7	水	4	フランツ・カフカの作品を読む	八木 頼子	2
7		14	水	4	まとめ	八木 頼子	3

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

各授業の終わりに課題提出 (30%)。最終回にテーマをひとつ選びレポート作成 (50%)。出席・授業への取り組み (20%) により総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

適宜配布する。

VIII. 質問への対応方法

講義中及び講義終了後に受けつける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出課題については授業内で取り上げ、フィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

詳細はシラバス（別冊）に記載する。

XII. コアカリ記号・番号

医学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版（p. 17・19）

A-4-1）コミュニケーション ③患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。

A-9）生涯にわたって共に学ぶ姿勢 ②生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。